

# OMUP ニュースレター



発行：大阪公立大学共同出版会

2005年11月30日

## 第12号

### 第6回評議員総会、第12回OMUPサロン、懇親会が開催される

去る5月21日(土)の午後3時より、大阪府立大学学術交流会館にて、第6回評議員(会員)総会が開催されました。創立後4年を経て、OMUP独自企画にも新シリーズ「OMUPブックレット」が登場するなど、出版書籍も一定数の発行が続いています。年間予算も1千万円を超える規模になったことを受け、NPO法人化が昨年度から議論され、本年度法人化を進めていくための環境を整える議事が提出されています。議事は以下の通りです。

#### 議事

- 第一号議案 平成16年度事業決算について
- 第二号議案 平成17年度事業予算について
- 第三号議案 理事長、常務理事、理事の選出について
- 第四号議案 NPO法人設立について
- 第五号議案 事務所移転について
- 第六号議案 規約変更について(事務所所在地の変更、その他)
- 第七号議案 業務契約について
- 第八号議案 出版活動の推進について 他

なお、本総会に先立ち、第7回理事会が開催され、総会の議案の他、OMUPの今後の活動方針などが議論されました。

総会終了後、小股憲明氏を囲んで第12回OMUPサロンが催されました。『近代日本の国民像と天皇像』(サロン紹介、新刊紹介参照)と題した本では、天皇制の歴史と天皇制を国民がどのように受け入れ、どのように対してきたかについて、興味深い話が次々と紹介される中、活発な質疑応答が繰り広げられました。

サロン終了後、学術交流会館ロビーではOMUP編集長金井一弘氏の司会で恒例の懇親会が行われました。発行されたばかりのOMUP新企画のブックレットも会場に展示されるなど、5年目を迎え法人化という



第7回OMUP理事会風景

新たな展開を見せるOMUPの今後について、あちこちで熱い思いが交換されていました。



懇親会で前理事長桑原氏のご挨拶



懇親会で展示販売されたOMUP出版物

### 平成16年度事業決算及び平成17年度事業予算

収入の部	平成16年度予算	平成16年度決算	平成17年度予算
前年度繰越金	2,801,338	2,801,338	2,726,234
書籍売り上げ	1,000,000	1,560,419	1,500,000
出版料(著者から)	5,000,000	4,793,550	5,000,000
出版助成金	1,500,000	1,900,000	1,000,000
出版分担金	100,000	99,500	200,000
出資金(1口10,000円)	150,000	50,000	150,000
広告料	3,000	1,000	2,000
利子	1	11	1
雑収入(版權取得費,その他)	1	297,495	1
合計	10,554,340	11,503,313	10,578,236

支出の部	平成16年度予算	平成16年度決算	平成17年度予算
<b>1 直接出版関係費用</b>			
(1)製造費	5,000,000	6,286,080	5,000,000
(2)運送・発送費	50,000	53,550	100,000
(3)編集デザイン料	800,000	1,481,550	1,200,000
(4)企画出版	1,000,000	0	500,000
小計	6,850,000	7,821,180	6,800,000
<b>2 事務費用</b>			
(1)交通費	50,000	0	50,000
(2)通信費	50,000	100,715	100,000
(3)消耗品費	50,000	13,652	50,000
(4)備品費	0	3,759	100,000
(5)出張費	100,000	30,000	100,000
(6)会議費	10,000	30,623	30,000
(7)調査研究費	100,000	0	100,000
(8)広報・広告	300,000	332,590	300,000
(9)渉外費	50,000	2,100	30,000
(10)光熱水費	0	0	50,000
(11)業務委託	420,000	420,000	500,000
(12)振込支払料	100,000	12,460	30,000
小計	1,230,000	945,899	1,440,000
<b>3 その他</b>			
(1)書籍売上著者清算	50,000	0	150,000
(2)書籍買取り	30,000	0	30,000
(3)出資金払い戻し	80,000	10,000	230,000
小計	80,000	10,000	230,000
3 次年度繰越金	2,474,340	2,726,234	2,108,236
合計	10,554,340	11,503,313	10,578,236

## 新理事長挨拶

今から15年以上も前のことですが、『ホーキング、宇宙を語る ビッグバンからブラックホールまで』（早川書房）という、当時話題になった本の目次に、「ブラックホール」や「時間の矢」という、物理に対して無知蒙昧な私の全く知らない新鮮な言葉を発見し、中学に入学したばかりの長男に買ってあげたことがあります。どのような場面だったのか今では不鮮明ですが、「学問を志すとき、巷間で一流といわれる大学に幸いにして入学することができても、どのような偉い先生に会っても学ぶことには限りがある。しかし、書物の中ではどんな偉い学者とも対面できるし学ぶこともできる。書物の中には無尽蔵の学問の世界があるのだよ」というような内容であったように記憶しています。今から思うに、臍気ながら上の記憶があったために、冒頭の行動に走ったのでしょう。また、物理や数学が至って苦手であったにも関わらず、私が理科系の学部に進んだのは、当時、授業をさぼって高校の図書室で読んだ、ジョージ・ガモフの「ガモフ全集」の影響であったように思います。最近では、専門書以外にほとんど本を読まなくなった私ですが、本は人生の分岐点でいつも大きな指針となっているように思います。

いささかの銜いととともに私と本との関わりを

述べれば、以上ようになります。このように、自慢できるほど本を読んだことのないものが、桑原前理事長の後塵を拝しながらOMUPの理事長になり、半年経過した今も後悔している次第です。

ところでOMUPは誕生後、すでに5年目を経過しました。本年4月には府立の4大学が統合され、公立大学法人大阪府立大学として発足しました。また、OMUPの一方の担い手の大阪府立大学も、来年度には法人化されるということ伺っています。このような大学の地殻変動の時代にあって、OMUPは今後の選択肢として、特定非営利活動法人を視野に入れる必要があります。

OMUPはこれまでに合計13冊を上梓し、ブックレットも4冊目となり、最近はいくつかの全国紙にも取り上げられるようになってきました。前理事長の時代から、“どこよりも安く・早く・よいものを”をモットーに出版事業を行っています。常務理事会では、出版予定の方々のご要望にできるだけ応えるよう、また会員の皆様のご要望をもとに、開かれた常務理事会として努力して参りますので、OMUPのさらなる活性化のためにも、本会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。



新理事長 三田 朝義  
(大阪府立大学教授)

OMUP独自企画  
OMUPユニヴァシリーズ  
OMUPブックレット

創刊のお知らせ

OMUP独自企画のお知らせ

OMUPユニヴァシリーズ

OMUPブックレット

## OMUP独自企画のお知らせ

OMUPでは、OMUP会員の教授陣が優しく専門分野の研究や教育論を説いた『OMUPユニヴァシリーズ』および、専門分野に関する議論の場としての『OMUPブックレット』を創設しました。現在は2冊のユニヴァシリーズおよび、3冊のブックレットを刊行し、大変ご好評いただいています。学問の幅を広げ、読者との交流もめざすこの新しい試みに是非ご参加下さい。詳細は事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

第11回OMUPサロン

『ゲーテの秘密結社』

— 啓蒙と秘教の世紀を読む —

大阪市立大学 北原 博



平成17年3月25日

18時～20時

「ゲーテの秘密結社」の  
著者、北原博氏を囲んで

春まだ浅い3月25日、地上125メートルからライ  
トアップされた大阪城をはじめ、360度のパノラマ  
の広がるスカイ  
レストランASAHI  
(大阪府中央区城  
見1-3-7松下IMP  
ビル26F)で、ゲ  
ーテにちなみ、ド



ゲーテの  
秘密結社

— 啓蒙と秘教の世紀を読む —  
北原 博

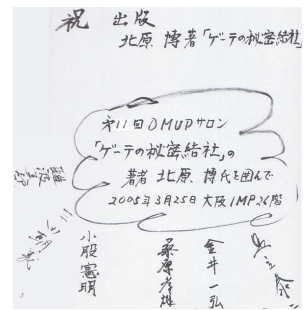
ゲーテの人間観の核心に迫る!

ゲーテが秘密結社の作品を集中的に書いたのは、ゲー  
テが秘密結社員として活動していた期間ではなかった!  
権威作家(エンカウンター)に異目し、ゲーテの文学  
作品を解説、さらにゲーテ時代のヨーロッパ精神史を  
も究明する。  
大阪公立大学共同出版会

イツビールで乾杯!とはい  
かなかったが、日本のビー  
ルと西洋料理を頂きなが  
らのサロンとなった。和服姿  
の若き文人、北原博さん  
には、同じ市大ドイツ語の博  
士課程学生のご夫人同伴で  
出席いただいた。発刊後、  
年末からドイツに滞在され

た由、そのときに撮影された新しい写真も交え、  
パワーポイントで示されながら、我々がまだ知ら  
なかったゲーテの素顔をご紹介いただいた。また、  
今回のような文系のドクター論文提出後、助成出  
版に至る経緯についても、  
詳細な報告を聞くチャ  
ンスがあり、これから  
の若い先生方にはたい  
へん参考になる刺激的  
な話であった。

(文責 足立)



著者は語る

第11回OMUPサロン



『ゲーテの秘密結社』  
— 啓蒙と秘教の世紀を読む —

大阪市立大学 北原 博

ゲーテと秘密結社はどのように結びつくのか。  
ゲーテといえば世界文学に名を残す文豪だ。一方、  
秘密結社なんて「トンデモ本」の対象なのではな  
いか。どう考えても釣り合いが取れていないよう  
に思われる。しかし、ゲーテはフリーメイソンや  
イルミネーティといった秘密結社の一員だったし、  
18世紀ヨーロッパの数多くの知識人たちが結社  
に関係していた。この時代を研究対象にしていると、  
嫌でも秘密結社に出会ってしまう。多くの研究者  
は「秘密結社って何だ?」と思いつつ、自分の研  
究対象だけでも手一杯なのにこんなえたいの知れ  
ぬものまで掘り下げていられないというわけで、  
つつい放置されてきたのが秘密結社なのだ。

それでは、秘密結社などわからなくてもヨーロ

ッパ文化の理解には支障がないのか。われわれは  
時代も文化圏も異なる文学作品をそれなりに理解  
することができる。作品が人間を描き出そうとし  
ているのだから、共感の余地があるのだ。分から  
ないところは分からないままでも、人類共通のもの、  
あるいは近代化のプロセスを経て日本文化の中  
に取り込んできた「ヨーロッパ文化」については、  
作品の中に目敏く見つけ批判をくわえることも容  
易だろう。しかし、ヨーロッパでは当たり前で、  
研究者ならば皆が知っているようなことでも、日  
本文化の中で育った者には理解しがたいものがある。  
それを言葉にしていく作業が、外国文化を日本で  
研究することの意義のひとつであろう。秘密結社  
もそんな分からないもののひとつなのである。

次回第13回サロンのお知らせ

次回の第13回サロンはブックレット全3冊の  
著者である森田尚文、前田智子、阿部敦、渡  
邊あり、および中井孝章の各先生を囲む予  
定です。ふるってご参加ください!

## 第12回OMUPサロン

## 『近代日本の国民像と天皇像』

大阪府立大学教授 小股憲明



平成17年5月21日  
16時～16時40分  
『近代日本の国民像と天皇像』  
の著者、小股憲明氏を囲んで

今年度総会に引き続き、第12回のOMUPサロンを開催した。近代日本の国家体制のなかで、国

## 著者は語る 第12回OMUPサロン



## 『近代日本の国民像と天皇像』

大阪府立大学教授 小股憲明

近代日本の国家体制は、帝国憲法と教育勅語によって確立され、国民・天皇のあるべき姿もまた、それらによって示された。そこでは、国民について議論する場合、帝国憲法・教育勅語に規定する「臣民」という立場から、必ず、天皇との関係が問題とならざるを得ない。天皇について議論する場合も、臣民＝国民に対して天皇とはどのような存在であるのか、ということ抜きにしては語れない。2005年3月、OMUPから出版して頂いた『近代日本の国民像と天皇像』は、近代日本における「国民の望ましいあり方」「あるべき国民の姿」「期待される国民像」、同様に、「天皇の望ましいあり方」「あるべき天皇の姿」「期待される天皇像」を、帝国議会に現れた議論、思想家たちの思索、憲法論などの検討を通じて、多角的に明らかにすることを意図している。

本書は、三部構成となっており、第一部「公認国民像と天皇像」では、明治10年代から大正期半ばにいたる時期を対象に、帝国議会開設以前については、政権担当者、民間それぞれの国民形成論を、国家像との関連において、検討している。帝国議会開設以後は、確立された国家体制のなかで、帝国議会に現れた国民道徳・国民思想関係議事、立憲教育関係議事、神祇崇敬関係議事など、国民

と天皇の関係がどう推移したかに焦点を当てたこれまでの同氏の論文の集大成である。本著はおよそ670頁になる膨大な分量であるので、3部14章からなる構成を目次に沿う形で紹介いただき、論議の内容を整理してお話しいただいたので、素人の理解を助けるものであった。天皇制については、聞き手の側にもさまざまな考え方があるが、今回のサロンでのお話は、天皇制についてそれぞれがさらに考えていく上での一つのきっかけになったように思われる。本著の内容については、本レターの以下の「著者は語る」の欄を参照されたい。

(文責 足立)

と天皇との関係に関わる多くの議事を丹念に分析することによって、政府・議会が共通に公認している国民像、天皇像（国民・天皇関係）について考察している。

第二部「思想家たちの天皇と国民」では、近代日本における学会の嚆矢ともいえるべき「明六社」の同人たち、幕末から明治初期に活躍した開明的漢学者であるさかたに阪谷しろし素、明治20年代に国民主義の論陣を張った新聞『日本』主筆のくが陸かつなん羯南、初期の平民主義から帝国主義へと変貌を遂げ、明治20年代から第2次世界大戦の敗戦に至るまで息の長い言論活動を続けた徳富蘇峰、満洲国建国運動に深く関わった『満洲評論』主筆のたちばな橘しらすき樸といった優れた思想家たちが、天皇・国民関係についてどのような思索を展開したかを検討している。

第三部「近代日本の君主制」においては、天皇の神聖不可侵性・絶対性の昂進と、天皇の制限君主性・デモクラシーの進展（議院内閣制の成立・普通選挙の実施など）という、一見矛盾する二つの事柄が、近代日本において同時に生起しているのはなぜかという問いへの解答を、主に憲法論的立場から試みている。

本書の試みがどれほど成功しているかは、読者の判断に待つしかないが、学部の卒業論文で陸羯南に取り組んで以来の、私の一貫した研究テーマであった「近代日本の天皇制」に関わる諸論文を、このような形で一書に纏めることができ、出版を引き受けて頂いたOMUPにはたいへん感謝している。そして、本年度からその常務理事として、新たに出版される方々のお役に立てるようになったことを嬉しく思っている。

寄稿「大学今昔」

大阪府立大学経済学部教授  
竹安数博



学生の頃、教員が新聞やら冊子に読書案内とか大学での過ごし方などについて書かれているのによく見かけた。それなりに面白く参考になるものであった。学生時代は殆ど授業に出ず、「バイトばかりしていた」、「学生時代は図書館と下宿で本ばかり読んでいた」、「大学は『独学』をすることである」。京大ではこういうのが多かった。著名な教授が揃いも揃って、こんなことばかり書いているのである。後から考えると、京大の教授になった人で真面目に授業に出ている人もいたのであろうが、恐らくこういうのばかり出てくると、「実は自分は授業に出ていた」などとは口に出せる雰囲気ではなかったのではないかと愚考している。

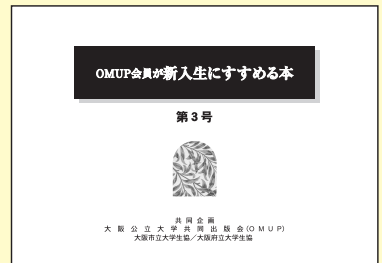
ともあれ、読んでいた自分が自ら書くほうに回ってきた。読

んで面白かった本を紹介するとき、どんな切り口で紹介するかを考えるのも面白い。だが、薦める本執筆の依頼のメールは突如来る。大体が期末に向けあわただしいときに限って、そういったものが集中するもので、あわててそれように読み直す時間など殆どない。特にノルマのものでもないそのまま放置しているうちに納期はとっくに過ぎ、「いまさら出すのも面倒だ、今年はパスにしておこう」といった具合になりがちである。具合の悪いときに限って具合の悪いことが発生するという珍ルールがある。「会社の偉い人が見回りに来たときに限ってシステムがダウンする」、「来客で急いで資料を追加準備中に限ってホッチキスの玉がなくなる」、「大勢の人に見送られる中で、バイクのエンジンが数分くらいプルンプルンとなかなかかからない」など冗談のようなことが発生しがちである。

読書案内は普段から読み終えたときに書くと手間もかからず書き溜めがしやすい。上記のようなルールとは無縁にできる。

「OMUP会員が新入生にすすめる本」を執筆してみませんか？

大学生活の中で多くの本と出会ってほしい。そんな願いから、OMUPでは『OMUP会員が新入生にすすめる本』を大阪市立大学生協、大阪府立大学生協と共同で出版しています。この度第3号となりました。

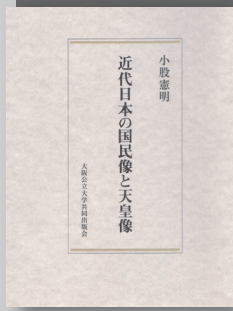


まだ執筆されたことのない方も、是非、学生時代の気持ちを思い出して執筆してみませんか？執筆者は随時募集中です。お問い合わせは事務局まで。

新刊本紹介

『近代日本の国民像と天皇像』

小股憲明著



待望の天皇制研究書

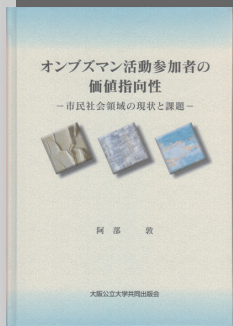
国民及び天皇の望ましいあり方、あるべき国民及び天皇の姿、期待される国民及び天皇像。これらを多角的に考察する著者渾身の一冊。

A 5判 本体9000円

『オンブズマン活動参加者の価値指向性』

ー市民社会領域の現状と課題ー

阿部 敦著



前作に続く市民活動分析

我が国の市民社会領域は、必ずしも力強い「社会改善・変革勢力の場」とはなりきれていない。前作『社会保障政策従属型ボランティア政策』の発展的作品。

A 5判 本体4000円

OMUPブックレットNo.1

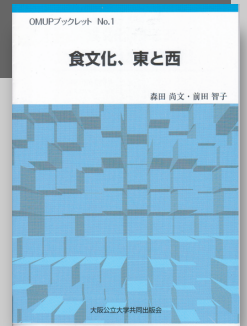
『食文化、東と西』

森田尚文・前田智子著

食文化の東西の違いを語る！

食文化の東洋と西洋の違いから始まり、小麦や玄米を使った食文化を紹介。

A 5判 本体800円

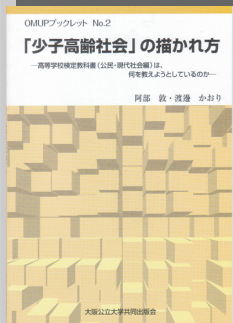


OMUPブックレットNo.2

『「少子高齢社会」の描かれ方』

ー高等学校検定教科書(公民・現代社会編)は、何を教えようとしているのかー

阿部敦・渡邊かおり著



少子高齢化を教科書から探る！

検定教科書が伝えようとしている「メッセージ」を福祉的観点から検証。

A 5判 本体800円

OMUPブックレットNo.3

『食育が子どもを救う』ー知識から知恵へー

中井孝章著

現代っ子の食の改善を徹底追求！

現代っ子の「食」改善の突破口は、口中調味を根拠とする、完全米飯給食の実現にある。

A 5判 本体800円





4回目となる今回は、大阪市立大学から、自称杉本キャンパスOMUP通信員山口英昌氏からのこぼれ話をどうぞ。

### 杉本キャンパスから OMUP会員の皆さんへの報告書

大阪市立大学生活科学部 教授  
山口 英昌



33年前になる。今は、世界の環境首都と呼ばれるようになったドイツの小さな町。小石を敷き詰めデザインされた歩道のそばにはせせらぎが流れ、ミンスターと呼ばれるカトリック教会の前の広場は朝市で賑わっていた。その美しい町フライブルグでの2ヶ月間、ドイツ語の特訓に苦しめられた。同じ釜の飯を食べた仲間は5人、いずれもフンボルト財団から奨学金をもらう給費研究員としてのスタートだった。いまでも交流が続く。

そのうちの1人が、われらがOMUPのドン。宮崎に居られるままだったら今のようなお付き合いはなかったろう。数年前に、大和川の対岸に本拠を移されてから、焼けボックリに火が付いた——ではなく、昔馴染みとの交流が再開した。

ある日、杉本キャンパスに現れたドンが「出版会を立ち上げる、手伝え」と熱弁を振るった。人の後からついて歩くのが得意で、人のお世話の方はからっきしの小生は、何人かのメンバーを紹介することで勘弁してもらった。

文化果つる大阪で出版会なんてと足を引っ張った小生の予測は見事に外れた。その後のOMUPの活動は目覚ましいものがある。あれもこれもドンの人柄と熱意のなせる技だ。

しかし、小生はいいささか困っている。出版のお誘いだ。無理だ、無理だと逃げ回ってもドンはしつこく攻め立てる。この春、定年になったと聞いてホッとした。これで開放だ。

ところがである。ドンは毎週のように杉本キャンパスに現れる。エッ勉強してるの。来年の春からは、本格的に研究を始めたいらしい。「近代ドイツの自然科学史を文化論的に極めたい」と、これまた熱弁を振るった。

まいったなー。当分出版の勧誘に攻め立てられそう。まいいか、来春には小生の方が杉本キャンパスからおさらばだ。それまでは、あの熱弁から元気をもらおうつもりだ。以上、ドンの最近の行状を報告します。(杉本キャンパスOMUP通信員)

### ニューフェイス紹介

事務局 前地 敏子  
(有限会社ダブルワークス)



3年前からOMUPの事務局を担当していただいている前地敏子さんをご紹介します。大阪女子大学では、総務担当のベテラン職員として活躍中。几帳面な事務処理を見込んで、W.WORKSでは是非にとスカウトしてきたのが始まりです。ついつい夢見がちな事務局メンバーを、しっかりサポートしていただいています。前地さんのおかげで、OMUPの本の販売、会計処理などがスムーズに運んでいます。

出版会の事務をさせていただくようになって、3年が過ぎました。もともと読書が好きでしたが、出版されるまでの様々な工程を知ることにつれ、出来上がった一冊の本が、とても大切に輝いて見えるようになりました。(前地敏子)

### ◆◆ 会員募集 ◆◆

OMUPでは、いつでも会員を募集しています。これから本の出版をお考えの方、図書の普及活動に興味のある方などなど、ご参加お待ちしております。  
<<入会>> 入会金：1口1万円（1口以上）  
振込先：UFJ銀行中もず支店  
普通 3976510  
大阪公立大学共同出版会

### ◆◆ 編集後記 ◆◆

OMUPも設立してもうすぐ5年目となります。来年度、NPO法人化へと準備が進んでいます。法人化することは、社会的な責任が増すということ。OMUPが議論の場を提供し続けることがますます大事になってきます。(mim)  
<<OMUP事務局>>  
〒590-0035 堺市大仙町2-1大阪府立大学大仙キャンパス内  
Tel (072) 222-4844 Fax (072) 222-4844  
E-mail:omup@w-works.jp または omup@hs.osakafu-u.ac.jp  
http://www.w-works.jp/omup/  
編集・発行 有限会社ダブルワークス